

受付番号

32

承認番号

大歯医倫 第 110873 号

研究課題名

全顎咬合印象採得時における印象材の三次元的様相

研究責任者

田中 順子

申請者

田中 順子

研究終了日

平成 30 年 3 月 31 日

所 属

有歯補綴咬合学講座

所 属

有歯補綴咬合学講座

職 名

准教授

職 名

准教授

申請の概要

咬合印象法は、咬合印象用トレーを用いて支台歯と対合歯および咬合関係を同時に印象採得する手法である。われわれはこの方法が、上下顎歯列を別々に印象採得し、咬合採得する印象方法(以下、通法)よりも咬合接触部の再現性において有意であること、およびクラウンの咬合調整時間が短時間でできることを報告してきた。また、患者アンケート調査において、咬合印象法のほうが通法と比較して短時間に診療が終了するために、負担の少ない印象法として患者から高い評価を得ていることを明らかにした。しかし、片顎咬合印象用トレーではロングスパンブリッジや部分床義歯等の広範囲な補綴修復処置での使用が困難である。そこで、われわれはより広範囲での印象、咬合採得が可能な全顎咬合印象用トレーを開発した。この術式を臨床応用する上で印象採得時に口腔内には多量の印象材が挿入される。印象材の粘稠度によっては咽頭内への印象材の流入が生じることも考えられる。片側時の咬合印象による印象体では硬口蓋後縁、咽頭部までの印象体は認められたことはない。全顎用では舌の動きがやや片側より妨げられるため安全性の面から視覚的に確認することが必要である。

本研究では、全顎咬合印象用トレーによる印象採得の安全性を確認するため、印象採得時に咽頭部への印象材の流入が認められるかについて仰臥位にて Multidetector-row CT を、坐位にて歯科用 Cone Beam CT を用いて三次元的に明らかにする。これにより、全顎咬合印象用トレーによる印象採得の安全性の確保につながると期待される。